

静岡県本部編 (その3)

「じちけん集会」で自治研の「芽」探しを体験

活気あふれるワークショップから、
新たなじちけん活動が生まれる予感…

● 五年ぶりの「じちけん集会」

一月から静岡県内七つの単組を回り、各執行委員会で「じちけん」を紹介してきたわけですが、私自身も「じちけん」ビギナーですし、限られた時間で口で紹介するだけでは、「じちけん」の魅力を十分伝えきることができませんでした。

そこで、「じちけん」活動のベテランである、福井県本部自治研推進委員の橋本和久さん、愛媛県本部自治研推進委員の西尾祥之さんを講師に迎えた「じちけん集会」を三月三日に開催しました。振



静岡じちけん集会に参加されたみなさん

り返ってみ

ると、静岡県で開催する「じちけん集会」はなんと五年ぶり！それ

でも、県内一〇単組から一四名の若手組員にご参加いただくことができました。はじめに福井の橋本さんから、「じちけん」ってなんだろ？」というテーマで、VTRも交え、丹南自治研センターによるローカル自治研の取り組みをご紹介い

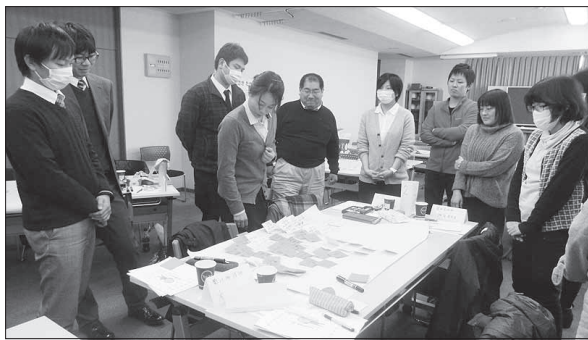
い発想がまとまりました。

● 新たな「じちけん」の芽

集会のまとめとして、福井の橋本さんから「参加者が積極的に前向きな意見を出し合い、夢を見たことが重要。中心市街地活性化についてのユニークなアイデアもたくさん出されたが、今回の参加者で「中心市街地研究会」をつくって、あちこちの街歩きをしてみるのも立派なじちけん活動だ」という具体的な活動例も示していただきました。

今回、はじめて顔を合わせる参加者がほとんどでしたが、ワークショップ終盤にはとてもいいチームができ、今回の参加者が一緒になってか、それぞれの単組に戻ってからかはわかりませんが、新たな「じちけん」の芽が生まれたような手ごたえを感じました。
次回は、参加者のその後の動きをご紹介できればと思います。

(佐野ひかる 静岡県本部自治研推進委員)



盛り上がったグループワークの発表

その後、各テーマについて議論を深め、たとえば「津波への対策」チームでは、子どもたちをターゲットにしたローカルヒーローをつくって、避難タワーでイベントなどを行い、防災への理解を楽しく深めてもらうという面白

自由な発想、それこそじちけん！

ただきました。バラエティに富んだ活動の様子を具体的に知ることで、「じちけん」は楽しくやるのが基本で、その中身は何でもありなんだという自由さを感じてもらえたいと思います。

● みんなが楽しんだグループワーク
続いて、愛媛の西尾さんから「自治研ファーストステップ」と題するお話をうかがった後、参加者が三つのグループに分かれてグループワークにとりかかりました。

グループワークのねらいは、①じちけんが扱うテーマの多様性を楽しむこと、②創造的な意見を練り上げていくこと、③二点。

まずは普段、自分が気になっていることを自由につぶやいてもらいました。「観光地に元気がない」「駅前を活性化したい」といったまじめなものから「出会いがない」「おしゃれなお店に入りづらい」「静岡県なのに富士山が見えない」といっ

好スタートを切った今回の「静岡じちけん」。フリーテーマのワークショップ形式で行ったことが成功の秘訣のようです。終了後のアンケートでも、今後「自由な発想で、地域をよくする活動など何ができるか」と思うので、青年部などの若者で会話する機会をもっと持たせたいという意見が、今回の「職場環境の改善について同様のことができれば面白そう」という意見があったそうです。今回の静岡県本部の取り組みからは、一人ひとりの組合員が、楽しみながら、わくわくしながら、仲間とともに自分の働きがいや生きがいを見つめるための「場」、それがじちけんだということがよくわかります。まず発想をやらなくして、意見を言い合うこと、聴き合うこと、そして勇気を持って何か一歩を踏み出すこと……他の集会・研修などでも活かせるヒントがいっぱいですね。

(自治研マイスター)